

# NEWSLETTER

## 2023年度研究関連活動報告

関西大学外国語教育学会 第17回研究大会

【日時】2023年3月4日(土) 13:30~17:00 (受付開始: 13:00~、総会 17:00~)

【会場】関西大学千里山キャンパス岩崎記念館4FとZoomによるハイブリッド開催

【参加費】無料(会員)、1,000円(非会員)

テーマ

「観点別学習状況の評価」と「指導と評価の一体化」を踏まえた教育実践と研究

<基調講演>

講師: 今井 裕之先生

(関西大学大学院外国語教育学研究科長・同大学外国語学部長・教授)

2017-18年の学習指導要領改訂で示された「資質・能力の三つの柱」とはどんな柱か。「指導と評価の一体化」に必要とされる「カリキュラム・マネジメント」は可能か。これらの疑問・課題に「観点別評価」の実践と研究を通して取り組むことを提案いただいた。

<実践報告1>

講師: 羽瀧 弘毅先生(西宮市立甲陽園小学校)

『バックワードデザイン』をキーワードに評価を「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」に分けて考え、授業観、指導観を変えることの重要性についてお話いただいた。

<実践報告2>

講師: 高橋昌子先生(ノートルダム清心女子大学英語教育センター)

2021年4月から3カ月に亘ってインドネシアの交流校学生との間で、自律的英語学習者を育てることを目的に実施されたオンライン国際交流での取り組みとそこから得た学びや課題について報告いただいた。

関西大学外国語教育学会 2023 研究会

【日時】2023年7月16日(日) 13:00 - 15:00 (受付: 12:30~)

【会場】関西大学千里山キャンパス岩崎記念館4FとZoomによるハイブリッド開催

【参加費】無料(会員)、500円(非会員)

テーマ

英語プロソディ指導を普通の授業に取り入れよう。

講師: 大和 知史先生(関西大学外国語学部 教授)

普通の授業では、時間が限られていることから発音・プロソディの指導を総合的に取り入れることには限界があります。本講演では、神戸大学附属中等学校での実践例をもとに、指導する際の要点をお話しいただいた。

## 関西大学外国語教育学会秋季研究会 2023

【日時】 2023年12月3日(日) 14:00~16:00

【会場】 Zoom Meetings (オンライン)

【参加費】 無料：会員・学部生 (関西大学以外の在籍者も可)

500円 (関西大学外国語教育学会 非会員)

### テーマ

多様な言語文化背景をもつ子どもたちへのことばの教育

講師：齋藤 ひろみ 先生 (東京学芸大学教授)

国内の小中高等学校(公立)の約3割で、日本語指導が必要な子どもたちが著しく増加している。その子どもたちは日々のコミュニケーションのみならず、教科学習のためにも日本語を学んでいるが、家族との関係やアイデンティティのあり様、キャリア形成において様々な困難に直面している。本講演では、現状の報告に加え、学校での日本語教育の実践事例をもとに、多様な言語的文化的背景をもつ子どもたちが日本語を学ぶ意味とことばの教育の役割についてお話いただいた。

### <本学会と多様な言語文化背景をもつ子どもたちへのことばの教育の結び付き>

秋季研究会は、現役の院生が企画し実施する会という位置づけになっています。今回は、外国語教育学日本語専攻の本学会役員からの発案で齋藤ひろみ先生のご講演が実現し、教員・学生のみならず、教育委員会、小中学校で教育にあたる現場の先生方、総勢57名に参加いただきました。

ご講演のなかで最も印象的だったのが、「同じ語学を教える者として、英語の先生が日本語指導の担当になる例があるので、英語教師を目指す人に多様な言語文化背景をもつ子どもたちのことばの教育について知ってほしい」というお言葉でした。近年、外国語学部地域・年少者日本語教育を専門とされる先生が在籍され、研究科に、日本語教育専門家養成講座のための特別プログラムが設けられるなど、大学における日本語教育をめぐる状況が変化していると感じます。

本学会は、これまで名誉会長の吉田先生のご助力を得て、大阪市内に拠点を置くNPO法人と共催で梅田のKANDAI Me RISEでイベントを開催するなどして、地域・年少者日本語教育の現状を伝える活動をしてきました。残念ながら、コロナ禍以降共催活動が止まっている状態ですので、機運が醸成されつつある今、この機を捉えてこれまで以上に発信していきたいと思います。(文責：戎 妙子)

### <発案者からの一言>

近年、日本の公立小中高等学校において、日本語指導が必要な児童生徒数が肩上がり増加しています。それに伴い、公立学校では、子どもたちへの日本語指導に関してさまざまな問題が生じています。そこで、年少者の日本語教育をご専門とする齋藤ひとみ先生にご講演をお願いし、多様な言語や文化背景をもつ子どもたちへのことばの教育というテーマでお話しいただきたいと考え、研究委員会に提案しました。

齋藤先生にご講演をお願いしたいと思ったきっかけは、日本語指導が必要な児童生徒と向き合っている教員や、地域で子どもたちの日本語支援に携わっている方々が、どのように日本語指導を行えばよいか常に困惑している現状があるからです。

齋藤先生がお話しされたとおり、子どもたちは日々のコミュニケーションのためだけではなく、教科学習のためにも日本語を学んでいます。さらに日本語のみならず母語を含む複数の言語に触れ、それらを発達させながら成長しているのです。今回のご講演を通して一人でも多くの方に、子どもたちにとってのことばの役割について考える機会となったのであれば幸いです。(文責：渡辺 怜)